

作業療法士の専門性を活かした 摂食嚥下リハビリテーション

佐藤ことみ[†]

第73回国立病院総合医学会
(2019年11月8日 於 名古屋)

IRYO Vol.76 No. 1 (20-23) 2022

要旨

臨床では、摂食嚥下障害により「食」への思いを実現できない患者を多く経験する。摂食嚥下障害の原因は、疾患や加齢による身体障害、高次脳機能障害、認知機能障害など多岐にわたり、これらが複合している場合もある。作業療法士は、対象者の「食」への思いを把握し、思いを達成するにあたって障害となっている摂食嚥下機能の評価と達成するための計画を立て、アプローチを行う。アプローチには、食事姿勢や食具の工夫、食事環境調整、退院後の生活を想定した調理練習や本人・家族指導等がある。

キーワード 作業療法士、摂食嚥下リハビリテーション、食事姿勢、食事環境

はじめに

1. 背景

食事とは、単に生命維持や健康の維持・増進等の生理的な意義のみならず、味わうことや満腹になることで満足感を得る精神的意義、人間関係の形成、家族や仲間とのコミュニケーションの場としての社会的意義を含む¹⁾。人々の健康と幸福を促進し、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為に焦点を当て、治療、指導、援助を行うことを専門とする作業療法士にとって²⁾、「食」へのアプローチは重要である。

2. 作業療法の過程

作業療法は、対象者の特定、インフォームド・コンセント、評価、目標設定と計画立案、実践といっ

た過程を経て実施され、定期的に成果・効果判定を行う²⁾。この過程において、対象者にとっての「できるようになりたいこと」、「できる必要があること」、「できることが期待されていること」を明確にしておくことが重要である。摂食嚥下リハビリテーションにおいては、何らかの原因によって食事ができない人に対して、その人の目標が「食べること」であるならば、なぜできないのかを評価し、どうすればできるようになるのか計画を立て、さまざまな作業療法アプローチから最適な方法を選択し、実践する。

3. 摂食嚥下障害の作業療法

摂食嚥下は、食べ物を認識してから口腔、咽頭、食道を経て胃まで送られる一連の動作であり、先行期・準備期・口腔期・咽頭期・食道期の5つの期に分類される。このいずれかで障害が生じると、食べ

国立病院機構医王病院 リハビリテーション科 [†]作業療法士

著者連絡先：佐藤ことみ 国立病院機構医王病院 リハビリテーション科 〒920-0192 石川県金沢市岩出町二73-1

e-mail : sato.kotomi.mc@mail.hosp.go.jp

(2020年3月16日受付, 2021年2月19日受理)

Swallowing Rehabilitation Utilizing Occupational Therapist's Expertise

Kotomi Sato, NHO Iou Hospital

(Received Mar. 16, 2020, Accepted Feb. 19, 2021)

Key Words : occupational therapist, swallowing rehabilitation, eating posture, meal environment